

私の中上級講義の特色

みなさんこんにちは。講師の澤井清治（さわいきよはる）と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。学習経験のある中上級クラスでは、以下のことを念頭に置いて講義を進めていきます。

①**一体感を大切にしていきます。**…ライブクラスも通信クラスも幅広い年代の受講生さんがいます。それでも同じ目的をもって勉強する仲間ですから、「気持ちを一つにして目標に向かっていくことが大切です」。講義は明るく、時に厳しく、笑いを交えながら最近の出題傾向を見据えて、実務の話も織り込んでいきます。質問、相談はいつでも大歓迎です。

②**「理論と理屈」、「語呂テクとフレーズ」、「ネコレジ」で攻略。**…社労士試験の大きな特徴として「範囲が広い」ということがあります。多くの知識をただ暗記に頼って覚えて行くことはかなり大変な作業です。よって、まずは「理論と理屈」で、出された問題文からたどっていけるようにしておきます。そうすれば、自分では「覚えていた、という認識」がなくとも自ずと答えを導き出すことができます。しかし、統計や数字、例外規定など「理論や理屈が通じない場合」も多くあります。そんなときのために語呂合わせのテクニックである通称「語呂テク」と、日本人のリズムに合った「七五調」や「笑えるフレーズ」を駆使して、受講生の暗記を

サポートします。さらに、中上級の方なら、条文はさっと目を通しただけで、「重要部分の確認をしたい」と考えるのが当然です。私の講義では、「図形」と「まとめ」を駆使したレジメ、通称「ネコレジ」を使用していきます。例えば、覚えておくための「まとめ」もネコレジをテキストに貼っておけばバッチリです。

③**初めから出題予想・初めから横断学習**…「どこが大事で、どこを覚えておけばいいのか」、受講生の聴きたいポイントはそこに尽きます。本試験を意識した学習で、「出題予想ポイント」をはじめらずバズバ指摘していきますよ。そして、中上級者のクラスでは、「初めから横断学習を意識

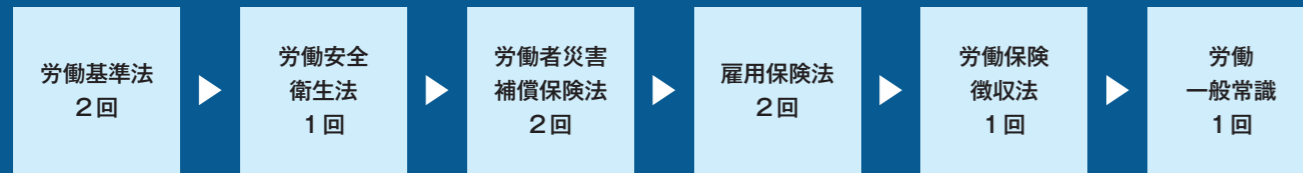
していきます。試験の前にわざわざ横断学習を行わなくとも、ある程度の整理ができている状態をつくっておきたいからです。例えば「監獄シリーズ」では、「労災は休業補償給付・休業給付のみ支給停止、雇用は無関係、健保は死亡と被扶養者は出る、年金は20歳前障害だけ停止」など、賃金や報酬、支給制限、不服申立、時効、書類の保存、最高罰など、最後には自然と覚えてしまう人がほとんどです。そして、なんといっても「講義は楽しく」がモットーです。自分が楽しくない講義は、受講生さんも楽しくありません。バカな話もしますが、感動する話もたまにはします。ぜひ、1度私の講義を体験してくださいね。

澤井清治講師が担当する、オプション講座

一問一答過去問セレクトスタンダード(択一式&選択式) [全16回/別売]

過去問は社労士受験生共通のテキストだ!

労働編



社会保険編



こんな方にオススメ

- 過去問対策に自信がない方
- アウトプット力が弱いと感じている方
- 初めて社労士試験を受験する方
- 本試験で点が伸び悩んでいる方

私の、一問一答過去問セレクトスタンダード(択一式&選択式)は、こんな講義です!

過去問は、社労士試験合格をめざす全受験生の共通テキストです

社労士試験合格を目標に勉強を始める人で、「過去問」をやらない人は、あまりいないと思います。つまり、過去問はすべての受験生の共通テキストのようなものなのです。よって、過去問に出ている問題が本試験に再度出題されたときに、「それを落とさないようにする」ことがとても大事なのです。なぜなら、社労士試験の合格基準は「相対的基準」だからです。多くの受験生が得点できない問題は落としてもさほど影響がありませんが、過半数の受

験生が得点した問題を落としてしまい、基準点を割ってしまうと、厳しい結果が待っているということにもなりかねません。

なぜ、一問一答方式なのか

私が一問一答式過去問題集の制作を手がけたのは、今から10年以上前のことです。本試験問題を一からパソコンに入力し、一肢ずつ詳細な解説を加えていきました。一問一答式にした理由は、5肢択一式では繰り返し学習しているうちに「答えを覚えてしまう」からです。そして、何より最近の本試験問題は「総合問題」といって、1問(5肢)の

中でテーマが異なっているので、復習するのにとても手間と時間がかかるのです。よって、一度選択肢をバラして、勉強しやすいテキスト順に並べ替えているのです。

一問一答、過去問講義の進め方

講義では2019年合格目標の合格講座、中上級講座の自習用教材である「一問一答過去問BOOK」を使って、おおよそ過去10年分の本試験の問題を一問一答形式で読み上げ、正誤判断して、解説していきます。基本的には、一度でいいので事前に問題に目を通してきてください。そうす

れば、わからないことがわかり、いらぬ論点は何かなど、スポンジに水が吸い込まれるように知識を吸収することができます。

事実、この講義で多くの受験生が力をつけて「壁を突破」しています。初めは理解しながらしっかりと、その後は徐々にスピードを上げて解いていくのが実力アップのコツです。

過去問を制するものは社労士試験を制するものでもあります。みなさんご参加、心よりお待ちしております。解らない過去問も、すぐに質問できることも大きなメリットです。

新宿エルタワー本校 生講義担当
Web・音声DL・スマホ収録担当
DVD収録担当

澤井 清治

(さわいきよはる)
LEC専任講師

澤井講師からのメッセージ

学習経験者のみなさん、社労士試験に合格するために必要な「5つの力」を身に付けて、一気に合格に王手を掛けましょう。5つの力とはズバリ、①基礎力、②過去問力、③初見問題対応力、④一般常識力、⑤受験期間のモチベーション維持力です。①基礎がしっかりできている。それが社労士試験の得点力源です。②過去問で鍛えて、アウトプット力を養成しておきましょう。③初めて見る問題に対応できること、それには、慣れと訓練が必要です。④一般常識の統計や白書を苦にしないようにしておくことです。⑤そして何より最後まで「気力を維持できるか」、そこが勝負の分かれ目です。「考えて悩むより、まずやってみる」その気持ちが、運と実力を運んでくれますよ。「運勢」とは運に勢いがある状態です、さあ、澤井の中上級クラスで、攻めていきましょう!

